

滋賀病院



ホスピタルロビーコンサート

当院循環器科医長の大西先生によるヴァイオリンコンサートが9月30日に院内ロビーで開催されました。クラシックから歌謡曲まで全11曲生演奏による、ひとときの「癒し」の時間となりました。



10月より婦人科から産婦人科に！

産婦人科

産婦人科医長
小野 哲男



この10月から新しく滋賀医科大学母子診療科から赴任させて頂きました産婦人科の小野哲男と申します。専門は周産期領域で大学では胎児超音波を中心に診療させて頂いておりました。この病院では地域の病院としての役割をふまえ、紹介すべきものは紹介し、担うべきものは担うメリハリのついた医療を構築していきたいと考えています。具体的には悪性腫瘍、体外受精、ハイリスク妊娠などは大学病院などに紹介し、良性腫瘍や子宮外妊娠などの婦人科救急疾患には積極的に対応、低～中リスクの分娩が安全・快適に行える施設を目標とします。

分娩施設立ち上げという重要な時期を担わせて頂くことに身が引き締まる思いですが、地域医療に貢献できるよう、全力を尽くしたいと思いますのでよろしくお願い致します。

10月より整形外科入院受入可能に！

整形外科

整形外科医長
菊地 克久



皆さん初めまして菊地克久と申します。整形外科常勤医として国立病院機構滋賀病院に10月1日より赴任致しました。又、今回滋賀医科大学寄附講座の総合外科学講座の一員としても、地域医療の実践と総合医の育成に力を尽くす形となりました。大学では約十年間、整形としてリウマチ・骨粗鬆症の臨床、及び生物学的製剤による治療や人工関節・関節形成手術等を中心に、又、近年は同大学病院で回復期リハビリ病棟での仕事も兼ねておりました。近年東近江市内の国公立3病院は、整形外科の常勤医が不在で、外傷の点でも二次救急医療体制が脆弱となっていました。地区医療機関の皆さまとの連携をより円滑にしながら、皆様に信頼して頂ける病院にしていけるよう鋭意努力していきます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

薬 剤 科 の 紹 介

■ 薬剤科スタッフ

近年、病院薬剤師の業務は多岐にわたり、薬剤師法に規定されている「調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどる」という薬剤師の任務は勿論のこと、他にもチーム医療の一翼を担う種々の業務に関与したり、他方病院経営に対しても積極的に参画することが望まれてきています。当院に関しても、国が推進している医薬分業に協力していくため、「院外処方せん」の発行を推進しており、平成12年12月の新病院発足時より月平均ほぼ98%の院外処方箋発行を行い、薬剤管理指導業務においても全病棟展開を実施しています。また、平成14年10月よりIVH無菌調製も実施しています。人数は少ないですが、以下紹介する活動を展開することで、クスリを安全に効果的に使ってもらうことが私たちの使命と考え、創意工夫しながら業務に取り組んでいます。



薬剤科長 堀内保直

薬剤科スタッフ

調剤主任 永井聡子

薬剤師 山本修平

薬剤師 西村幾美

薬剤師 藤本智大

薬剤師 荒木麻里子

薬剤助手 小泉和美

■ 調剤業務

入院患者さまと一部の外来患者さまの内服薬や外用薬について、処方せんに基づきお薬を調製・調合します。入院患者さまの注射薬については、取り違えや投与量間違いがないように、患者さまごと及び一日ごとに調剤し病棟に払い出しています。処方せんの内容(お薬の量、使い方、飲みあわせ、配合変化など)に疑問を生じた場合には医師に直接確認した後に調剤します。患者さまが安心して最適な治療をお受けいただけるよう心がけております。



■ 製剤業務（無菌製剤業務）

現在市販されていないが治療に必要なお薬や、消毒薬などを医師の依頼に基づいて必要性、有効性、安全性などを検討し病院独自の薬を調製します。外来および入院患者さまの抗がん剤を無菌室内の安全キャビネットで無菌調製しています。抗がん剤化学療法は、各診療科の医師と根拠となる文献をもって慎重に検討したうえで、化学療法小委員会で審議し、レジメンとして登録を行っています。患者さまには登録されたレジメンを使用し、無菌調製を行うことでより安全かつ有効的に治療できるよう努めています。また、高カロリー輸液や点眼剤等の調製をクリーンベンチ内で無菌調製しています。



薬剤管理指導業務



入院されている患者さまへ直接、お薬の効果や使い方等の説明を行う服薬指導を実施するとともに、医師、看護師等と連携し、医療チームの一員として医薬品の適正使用のための情報なども提供し、薬剤師の立場から患者さまにとって適切な投与方法などを提案いたします。さらに、患者さまが退院される際にお薬手帳などを交付し、退院後の薬物治療が円滑に行えるように説明いたします。

医薬品管理業務



購入したお薬の品質は患者さまに交付されるまで、薬剤師が専門的な知識を基にして管理しています。また、積極的にジェネリック医薬品を評価しつつ、採用することで医療経済全体および患者さまの負担軽減に努めています。

医薬品情報管理業務

お薬についての多くの情報を収集・評価し必要なものを医師やそのほかの医療スタッフに伝達することにより患者さまの安全性を確保しています。また、万一お薬で何か不具合が生じた時には、発生した情報を厚生労働省に報告し、副作用の拡大防止を図ります。



臨床試験及び研究

<EBM臨床研究>

国立病院機構では144施設が協力し、EBM研究を行っています。薬剤科は参加している研究の事務局業務をおこない、円滑に業務が進行するようにコーディネートしています。

<受託研究>

市販後臨床試験等を積極的に行うことで、医薬品製造業者とともに該当する薬剤の日常診療下での有効性や安全性を確認しています。

糖尿病教室・病院実習受入



<糖尿病教室>

病気や薬による治療に対する理解を深めていただくため、医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、理学療法士、検査技師による糖尿病教室を開催しております。薬に対する必要な知識を身につけ、安心して治療を受けていただけるようサポートしています。

<薬学部学生の教育実習受入>

2006年度から薬学教育が6年制に移行し、昨年度から5年生時における病院と保険薬局での6ヵ月間の実務実習が始まっています。当院でも学生実習を受け入れており、未来の薬剤師育成に寄与しています。

第24回 臨床談話会(東近江医師会合同)

8月25日(木)に八日市ロイヤルホテルにて、東近江医師会主催の臨床談話会に参加させていただきました。

当院からは各診療科より9例の講演を行いました。
当日は当院職員も含めて70名を超える方々に参加いただき、有難うございました。



市民公開講座のお知らせ

平成23年11月23日(水) 祝日 午後1時30～午後4時

会場： ショッピングプラザ4階 アピアホール

テーマ

「健診で引っかかったらどうしたらいいの？」

何ともないからと放っておいてはいけません！

司会 国立病院機構滋賀病院 副院長 辻川知之

<講演>

- | | | | |
|---------------------|------------|--------|------|
| 1. 血圧が高いと言われたら？ | 国立病院機構滋賀病院 | 循環器科医長 | 大西正人 |
| 2. 血糖が高いと言われたら？ | 〃 | 内科医長 | 前野恭宏 |
| 3. 胸部X線で異常ありと言われたら？ | 〃 | 呼吸器科医師 | 仲川宏昭 |

参加
無料

NEWS

本町「秋」パサージュ2011 「街の保健室」開催のお知らせ

八日市本町商店街アーケード通りで行われます本町「秋」パサージュ2011に於いて今年も「街の保健室」を開催致します。看護師による身体測定(体脂肪測定・骨密度測定) 血圧測定、看護相談などを行います。気軽に健康チェックにいらっしやいませんか。

日時：11月12日(土) 10:30～15:00